

※結果分析(○できている ●できていない)

〈学力調査〉

【国語】

○行書に関する問題は全員解答している。読むことや問3(物語)の正答率が高い。

●無解答率が低い問題は正答率が平均以上のものが多く、自信がない問題は答えたくない傾向がみられる。

【数学】

○基本的な知識の理解はできているところもある。具体例が示されている。

素因数分解の正答率が高い。

●記述式の無解答率が3割をこえてしまっており、正答率も低い。

【理科】

○生物分野の正答率が高い。基本的な知識の問題はできているように感じる。

●他人の考えや、実験考察の正答率が低く、無解答が増える傾向がある。

〈学習状況調査〉

○学年によりばらつきはあるが、ICTの活用率(タブレット端末)は全国や岡山と比べても高い傾向にある。

良い実践や使ってみた教材を端末に公開し誰でも見ることや使用ができるように整備をしていく。

「自分で決めたことはやりとげる」の項目が全国より高い。

●「自分によいところがある」「将来の夢や目標を持っている」の項目が全国78.5に対し、66.3と低い。

※学校としての対応・目標

- ・帯学習で小テストを行うことで家庭学習を促す。授業と家庭学習のつながりを意識する。(前時の学習の定着を図る家庭学習に取り組むきっかけにする)
- ・家庭学習時間増加や基礎学力定着に向けて、自主学習や放課後教室を行う。
- ・生徒の書いた振り返りを次時の授業で有効に用いるなど、振り返りの価値を高める。
- ・教科の特性に応じて、授業の効率を高める「予習課題」「復習課題」に取り組むよう指導する。
- ・授業の中で、読み取った内容や考えたことを根拠を含め表現し、考えを共有する時間を各教科で増やしていく。

以上のような学校の指導意図をご理解いただき、ご家庭でもご協力いただきますよう、
よろしくお願いいたします。